

矢作川流域圏懇談会通信

R2 山部会編 vol.1



発行日：令和2年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第55回山部会WGを開催しました！

7月3日(金)に第55回山部会WGを新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で岡崎市にて開催しました。今回は山部会の活動進捗報告と活動目標の確認を行い、流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインのテーマについて情報共有と意見交換を行いました。懇談会設立以来初のオンライン参加者を交えたWGとなりました。

日時：令和2年7月3日(金) 13:30~17:10

場所：岡崎市額田センター「こもれびかん」

参加者：32名(内オンライン参加4名) ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)の取り組みと活動計画について

今年8月に流域圏懇談会は設立10周年を迎えます。そのため、昨年度は事例集づくりをお休みして、10年誌づくりのための編集委員会を7回実施し、2月の全体会議で「矢作川流域圏懇談会10年誌パイロット版」を配布しました。今年度は、これまで事例集や団体取材・キーパーソンヒアリングで得られた情報を整理し、完成版の10年誌づくりを中心に活動を進めていきます。10年誌は6つの章で構成し、年内発行を目指します。そのため、以下の活動を行います。

- ・ 10年誌作成のための編集委員会を実施する。 ・ 流域圏懇談会10年誌座談会を実施し、その結果を掲載する。
- ・ 既に実施したキーパーソンヒアリングの結果を整理し、掲載する。
- ・ 102団体の取材結果から、活動を視覚的にわかりやすい形で整理し、紹介する。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村に憧れ、山仕事に意義を見出している人たちが相互交流できる場として、山村ミーティングの役割があると考えています。昨年度は、林業技術者・技能者の横の連携を図る取り組みとして「矢作川流域林業担い手100人ヒアリング」を実施し、その結果を報告しました。また、林業技術者・技能者が集まれる場として「矢作川感謝祭」に参加しました。今年度は、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインとのつながりを重視し、林業の担い手が集まるミーティングを実施しながら、現場の生の声を聞いていく、ガイドラインづくりに参画できる体制を構築していきます。併せて、次年度以降の矢作川感謝祭の活用を検討していきます。

3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて

山村ミーティングとの融合を勘案し、今年度の森づくりガイドラインの活動目標を大幅に書き換えました。矢作川流域の森を守っているのは、林業技術者・技能者などプロの人たち。そのプロの人たちが、地域に誇れる仕事をしているという自負をもてる指針となるのが、ガイドラインと考えます。同時に、河川管理者、沿岸漁業者、流域住民がプロの仕事を理解し、リスペクトして応援するような形に流域全体をもっていきたい。そのようなメッセージを伝えるガイドラインづくりを進めていきます。

また、自由な視点で森づくりに取り組めるよう、フリースタイル林業の考え方をガイドラインに盛り込みます。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

昨年度は、木の魅力と楽しさを伝えることを目的に、52回の木づかいライブ・スギダラキャラバンを実施しました。特に重視しているのは、子供たちとそのファミリーを対象とした木による「原体験」の場、みんなが喜ぶ場面を創ることです。また、根羽村森林組合では、フォレストガーデン構想を展開しており、広葉樹を活かした景観整備、木製品を活用した森林空間づくり、間伐材を利用した「木糸」の利用などの事業を推進しています。

今年度も、木づかいガイドライン作成に向けた以下の取り組みを行っていきます。

- ・ 流域内で実践されている木づかい取り組み事例の収集
- ・ 「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の推進
- ・ 矢作川流域圏懇談会の取り組みを全国の流域関係者に発信
- ・ 「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施



5. 話題提供

①「岡崎市森林整備ビジョンの見直し」について(岡崎市経済振興部森林課)：岡崎市では平成22年度に策定した岡崎市森林整備ビジョンについて、森づくり協議会を設置し、ビジョンの点検、評価、見直しを行っています。

②「額田地域の森づくりに関して」(岡崎森林組合)：額田地域では、令和元年度に岡崎市雨山町轟地内、令和2年度に岡崎市東河原町滝沢地内で森林整備を行っています。翌日のフィールドワーク予定地でしたが、悪天候のため中止しました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集 (10年誌編集委員会の取り組み)

- ・10年誌を通じて自発的、有機的な関係を構築していくというのは、懇談会の原点と思う。(今村)
- ・「こういう人がいて、こういう活動がある」などが分かる、目次のようなところがあるとありがたい。(今村)
 - ▶ なかなか難しいかもしれないが、編集委員会で検討していく。(洲崎)
 - ▶ キーパーソンへのヒアリング対象者は、レポートの提出をお願いする。流域圏懇談会の歩みを共有できるようなものを作りたいと思う。(洲崎)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・山村ミーティングと同じようなことを豊田の関係者でやってもらった。森林ガイドラインと融合させていくというのがカギと思う。(山本)
 - ▶ 研究者、現場の技術者、行政も入り、流域圏の3県(長野・岐阜・愛知)のそれぞれの人が、境界を越えて本音で話し合うことができれば、未来を照らす森づくりのガイドラインができていくと思う。(丹羽)
- ・今年度の目標に向かって何をやっていくかについては、これから検討していく必要がある。いきなり集まるというステップではなく、前段階があると思うので、これからみなさんで考えていかなければならない。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドライン

- ・県ガイドラインに現場の声を反映させる機会として、パブリックコメントの場面がある。県ガイドラインというのは、基本線であって、応用があってもよい。(生田)
- ・県ガイドラインというのは、絶対ではない。(小島)
 - ▶ 林野庁が作った国レベルのガイドラインについても、最初にそれを現場でやっている人に見てもらって、現場のイメージと比べてどうかという話し合いをやるべきかと思う。(蔵治)
 - ▶ 森づくりガイドラインとしては、いきなり4つの組合が集まるというよりも、どこかの森林組合と協議の場を設定し、話をする必要があると思う。(蔵治)
- ・フリースタイル林業など新たな森づくりの取り組みなどを、追っかけのような形でやってみるのもよいかと思う。(今村)

●矢作川流域圏木づかいガイドライン

- ・木系について、詳しく教えてほしい。(洲崎)
 - ▶ 徳島県上勝町にある会社で木系の製品を作っている。木系は間伐材からチップを作り、それを紙にして糸を作る。糸ができれば、色々なパターンの布ができる。まず、木系で作る製品を決めて普及していくなど。また、チップについては、木質バイオマス発電でオフアークがきている。知多市にチップを使った発電施設がある。(今村)
- ・今年度のスギダラ キャラバンの状況はどうか。(蔵治)
 - ▶ 根羽村森林組合では、小学校から大学まで、学校との連携活動を行っている。3月に岐阜女子大学の学生による木材を使った家具製作実習を行った。愛知教育大学と木育関係での取り組みも進めている。その他、健康や憩いの空間づくりなど、新しい形の取り組みを進めたいと思っている。(今村)

●岡崎市森林整備ビジョンの見直し

- ・岡崎市森林整備ビジョンの施策体系であげられている項目の金額的な評価は行われているか。(浅田)
 - ▶ 金額的な評価は行っていないが、目標値に対する評価は、森づくり協議会の中で検討している。(坂坂)
- ・「育てよう! 明日の林業家プロジェクト」のイメージはどうか。(今村)
 - ▶ プランナー育成は、目標値を設定して進めている。働き手の満足感を満たし、安全・安心を確保しながら、森林の仕事に誇りをもって、働いていただけるようにしていきたい。(坂坂)
- ・森林環境税、水道水源税など、国の制度との関係はどうか。(沖)
 - ▶ 森林環境贈与税の仕組みで回りはじめている段階。森林整備は、森林経営管理法の中で進められている。(坂坂)
 - ▶ 愛知県の場合、愛知県森と緑づくり事業の税がある。加えて今回の国の制度での税もある。市民にとって、「水の恵みをいただいている対価として支払っている」というのが、分かりやすいと思う。(蔵治)



今後のスケジュール (予定)

次回の山部会 WG・フィールドワークは、8月28日(金)・29日(土) 根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 技官 中村

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。





発行日：令和2年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第56回山部会WGを開催しました！

8月28日(金)に第56回山部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で根羽村にて開催しました。今回は出発点である「矢作川の恵みで生きる」について協議したのち、流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインについての状況報告と意見交換を行いました。今回もオンライン参加者を交えたWGとなりました。

日時：令和2年8月28日(金) 13:30~17:00

場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」

参加者：20名(内オンライン参加5名) ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有について

流域圏懇談会の出発点である「矢作川の恵みで生きる」について、2012年に設定した未来像や課題を今年一年かけて4つのテーマから検証し、必要に応じて修正・見直しを検討していきます。今回の協議では、修正・見直しにあたり、以下の方針を決定しました。

- ・ 基本的に2012年資料をベースとし、毎年の達成状況や今後の計画等がわかる形で、随時修正・見直しを行う。
- ・ 「共有」の範囲を流域圏懇談会から流域圏内外の地域に拡大していく方向で検討する。

2. 流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)の活動進捗状況・計画

今年8月で流域圏懇談会設立10周年です。10年誌づくりのための編集委員会をこれまで9回実施し、10年誌の構成案ができあがりしました。キーパーソンヒアリングの原稿もそろい、編集作業を進めているところです。また、7月に名古屋で座談会を実施し、矢作川流域圏での運動・活動の歴史を振り返りながら、矢作川流域圏懇談会が発展し、広がっていくためのプロセスを検討しました。10年誌は、6つの章構成、120~130ページ、年内発行を目指しています。

3. 山村ミーティングの活動進捗状況・計画

森づくりガイドライン、木づかいガイドラインとのつながりを重視し、林業の担い手が集まるミーティングを実施しながら、ガイドラインづくりに参画していくプログラム、スケジュールの具体化を進めています。また、流域圏懇談会に参加する4つの森林組合が一堂に会する機会のひとつとして、10月10・11日に開催される「耕Lifeマルシェ」への参加を検討しています。併せて、10月31日の「いなかとまちの文化祭」への参加を検討しています。

4. 森づくりガイドラインの活動進捗状況・計画

林業技術者・技能者など、実際に森をつくり守っている方々の声を森づくりガイドラインに反映させるため、各森林組合の了解を得た上で、技術者の方々が集まり、協議するための段取りを、山村ミーティングと連携しながら進めています。また、流域木材のトレーサビリティは、「矢作川の恵みで生きる」に関係する重要な仕組みのひとつです。そのため、岡崎市森林整備ビジョンの改訂作業の中で指摘されている木材のトレーサビリティについて、協議しました。

5. 木づかいガイドラインの活動進捗状況・計画

木づかいガイドラインに関係する根羽村の取り組みとして、林齢平準化への取り組みのひとつとして広葉杉の植栽と単木防護柵チューベックの導入、フォレストガーデン構想としてウッドデッキ等の木のアイテム導入と企業CSR活動としてのハナモモの桃源郷づくり、広葉樹利用のための木質改善乾燥への取り組み、地域社会のフィールド提供として「俺の裏山事業」などの活動状況を報告しました。また、「子どもの居場所」木質空間整備事業や木づかい整備事業など、森林環境譲与税を財源とした事業、木系プロジェクトの状況、デザイナーと森林組合のコラボなどについて、紹介しました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有

- ・「山村再生担い手づくり事例集」から流域全体の「流域圏担い手づくり事例集」に進化させた。(洲崎)
- ・山村へのシフトについて、前向きに変わってきた10年であったと思う。(丹羽)
- ・この10年でわかってきたこと、新たに出てきた課題を整理し、変化がわかる資料にするとよい。(洲崎)
- ・矢作川流域では皆伐は起きていない。行政も含めて皆伐は望んでいないという方向性と思う。(蔵治)
- ・新しいライフスタイル、価値観などが創造され、山村としてひとつの受け皿になりつつある。(今村)
- ・農山漁村に若い人たちが帰ってきている。農山漁村回帰のような動きが起きていていると感じる。(山本)
- ・「共有」の範囲を考える必要がある。山・川・海があるが、都市という視点が欠けているところがある。(近藤)
 - ▶ 基本的に2012年資料を細かく修正する必要はなく、我々が何を成し遂げてきて、今後何をやっていくかを決めていく。10年間の達成点があって、その上に今後やっていく計画を作っていくというイメージで進めていく。(蔵治)

●流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)

- ・矢作川流域で起こってきたことをまとめてみようと思い作成した。対象団体を設立やトピックスを年度順に並べてみると、各時代にやってきたことがわかり、市町村合併をからめてみると非常におもしろい。(近藤)
- ・座談会を行った名古屋市錦町の街中のベンチは、旭の木材であった。次の展望を都市にも向けなければならない。(近藤)
- ・2010年あたりから、新しい人、若い人が入ってきて非常にダイナミックに変化してきた。そうした中で、山、川、海に関わることで、里と都市がもっと魅力的になるのではと思う。(洲崎)
- ・若い人、新しい動きを中心に、色々とおもしろいことが見えてきたと思う。(高橋)

●山村ミーティング

- ・矢作川感謝祭は中止となったが、3県組合が一堂に会する機会を消してはならない。(丹羽)
- ・10/10-11の「耕Lifeマルシェ」への参加は、森林組合にも依頼は来ており、OKと回答している。(今村)
- ・「耕Lifeマルシェ」の中に矢作川感謝祭での企画を小規模にして入れ込むと考えればよい。(丹羽)
 - ▶ 市民部会に提案して、流域連携としての位置づけで支援してもらえるかどうかを確認する。(蔵治)
 - ▶ その場合、10/10-11の前に市民部会を設定する必要がある。現時点では日程調整中。(中田)

●森づくりガイドライン

- ・上流で生産した材が下流で使われるとき、矢作川流域の材であるという“物語性”が伝わるのが重要と思う。(今村)
- ・岡崎市や西三河の下流域というのは、国産材で建てる住宅の数からいっても相当な需要がある。その材を流域産の材で置き換えられる可能性がある。(蔵治)
- ・岐阜県では、市町村のどこから出た材かを証明し、助成制度も使って県産の材が使われる制度を策定している。(大重)
- ・根羽村森林組合では、子供たちが木の家を知り、考えるためのパンフレットを作成する予定である。(今村)
 - ▶ 「矢作川の恵みで生きる」ということは、まさに矢作川の恵みである材木でできた家に住むことでもある。それが上流側の産業を支えることにもなる。(蔵治)

●木づかいガイドライン

- ・森林認証材は、トレーサビリティで使えるのか。(城田)
 - ▶ 伝票で全量証明しているのがトレーサビリティで使える。また、トレーサビリティが確保された形として森林認証を取得するほうがよい。材を出すところと作る場所、それが結ばれているのが森林認証制度と言える。(今村)
- ・産地証明と森林認証は、セットであると考えてよい。(蔵治)
 - ▶ セットと考えてよい。製材加工工場のCOC認証と森林認証をもっているところが結びついて、そのプロセスを経た材が森林認証材となる。(今村)
 - ▶ プロセスをきちっと管理することが、トレーサビリティということになる。(大重)

●その他(話題提供)

- ◆矢作川新報記事：8月1日の「水の日」に関連して、水循環基本法のフォローアップの一環として、オンラインセミナーが実施された。記事では、森林と水、上流と下流の関係性など、セミナーの内容等が紹介されている。(蔵治)
- ◆SMOUT 移住研究所レポート：「長野県・根羽村の林業にみる、日本の中山間地域の進むべき未来像」として、根羽村森林組合による林業技術者育成、森林育成等の活動が紹介されている。(今村)

今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WG・フィールドワークは、10月23日(金)・24日(土) 恵那市にて開催します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 技官 中村



*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

R2 フィールドワーク vol.1



発行日：令和2年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆根羽村の木づかい現場を訪れ、地元産材の活用などについて学びました！

根羽村森林組合が取り組んでいる木づかい活動の現場のいくつかを訪れ、地元産材の活用、森林の保全や育成について学習しました。

日時：令和2年8月29日（土） 9:30～12:00

場所：①山地酪農実験地：フォレストガーデン構想 ②小柄私有林植栽地：スギ・コンテナ苗植栽 ③万場瀬集落周辺森林：俺の裏山事業 ④ハナモモ植栽地：企業 CSR 活動

参加者：12名（事務局を含む）



◆フィールドワークの記録

① 山地酪農実験地：フォレストガーデン構想

ネバーランド近くの山地酪農実験地。フォレストガーデン構想の一環として、ブランコやデッキなど、間伐材を使った木のアイテムが設置され、森と人との共生のための空間づくりを試行しています。



山地酪農実験地 牛が放牧されている



地元産材を利用した各種アイテム（左：休憩所 中：木のデッキとテント 右：ブランコ）



② 小柄私有林植栽地：スギ・コンテナ苗植栽

林齢平準化への対応として、スギのコンテナ苗を植栽しています。植栽ではシカによる食害を防止するため、安価で施工性の高い単木防護柵（チューバックス）が導入されています。今後は、スギだけでなく「広葉杉」の植栽も検討されています。

単木防護柵によるシカの食害対策の試行



③ 万場瀬集落周辺森林：俺の裏山事業

地域社会活動を提供する場所として「俺の裏山事業」が実施されています。自分の裏山を伐採し、丸太や切株を利用した里山の楽しみ方を試行しています。



④ ハナモモ植栽地：企業 CSR 活動

フォレストガーデン構想の一環として、企業の CSR 活動によるハナモモ苗の植栽が進められています。花を軸として、景観・空間づくりを工夫しています。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R2 山部会編 vol.3



発行日：令和2年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第57回山部会WGを開催しました！

10月23日(金)に第57回山部会WGを新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で恵那市にて開催しました。今回は、10年誌編集の進捗状況の報告、山村ミーティング・森づくりガイドラインに関する流域ガイドライン企画書の協議、木づかいガイドラインの状況報告を行いました。また、恵那市より森林環境譲与税に関する話題提供がありました。

日時：令和2年10月23日(金) 13:30~17:00

場所：恵那市上矢作振興事務所 講堂

参加者：19名(内オンライン参加1名) ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)

10年誌編集委員会より、編集状況とキーパーソンヒアリングの原稿について報告されました。10年誌は約150ページ、6章で構成されます。年内に完成する予定で編集作業を進めており、11月中旬に各部会のチェック、12月上旬に印刷所への入稿という計画です。印刷部数は300部で、その他、廉価版200部の印刷を予定しています。

2. 山村ミーティング/森づくりガイドライン

「矢作川流域の森づくりガイドライン」の策定を進めていくため、ガイドライン策定作業への林業技術者の協力をお願いする森林組合への文書案、ガイドライン策定会議の企画案について検討しました。

森林組合へは、ガイドライン策定作業に関する打合せの実施と林業技術者派遣について協力をお願いしていきます。

「矢作川流域の森づくりガイドライン策定会議」の企画では、「林業技術者が仕事の意味や重要性を理解し、自信と誇りをもって作業を行える指針」を策定することを目的に、研究者や林業技術者等で構成する会議を行い、2022年を目標にガイドラインを策定していく計画としています。

WGでは、本企画について、ガイドラインの目的や会議の構成等を具体化していくための協議を行いました。

3. 木づかいガイドライン

今年度取り組んでいる「子どものための今すぐはじめる森と木のある暮らし事業」について、その目的や事業内容、実施状況等について報告されました。本事業は、南信州及び矢作川流域の小中学生を対象に、普段の生活の中で「森や木のある暮らし」が実践できるように、森林整備や木を活用する体験プログラムを造成することを目的とする事業で、子どもたちを里山へ導くためのプログラムが計画・実施されています。報告の後、実際プログラムで使われているウッドデッキや端材で作った椅子などを見ながら、プログラムの内容等の説明がありました。



4. 話題提供 森林環境譲与税を使った森林整備の事例について

恵那市より「恵那市における森林経営管理制度の取り組み」について、状況報告がありました。恵那市では、森林環境譲与税を使って、民有林の整備に取り組んでいます。市職員、施業プランナー、地域森林監理士などからなる恵那市森林整備検討委員会を設置し、意向調査対象森林の選定、モデル地区の選定を行いました。笠置・明智・串原の3地区のモデル地区が選定され、意向調査の実施、経営管理集積計画の策定を行い、森林経営管理事業として保育間伐を実施しました。森林環境譲与税を財源とした森林経営管理制度に基づく取り組みは恵那市が先駆的に実施しており、今後の展開が期待されます。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集 (10年誌編集委員会)

- ・キーパーソンヒアリングは、キーパーソンの方々から流域圏懇談会にどんな意見をお持ちか、今後の流域圏懇談会に何を期待するかを伺うことを目的に実施した。(洲崎)
- ・11月上旬にとりまとめた原稿を各部会座長にチェックしていただく。12月上旬には印刷所に入稿し、年内に印刷完成・冊子完成までもっていく予定。(浜口)
- ・産官学民でやっている矢作川流域圏懇談会であることが感じられるようになるとうい。(丹羽)
▶ 矢作川流域物語の中において、産官学民で行っていることを読み取れるようにしていく予定。(洲崎)

●山村ミーティング/森づくりガイドライン

- ・林業技能職員の市民の声を聞く場、視野を広げる場としてとして会議の場が機能するとよい。(今村)
- ・市民に思いを伝える場もほしい。市民の方々も参加していただける場があるとよい。(眞木)
- ・会議の規模はどのくらいを考えているか。(山本)
▶ 学習交流の場であることを考えると、規模としては14~15名あたりがよいと考えている。(丹羽)
- ・行政はどのあたりまで声掛けしようと考えているか。(原田)
▶ 行政も一心同体でやっていかなければならないと思うので、特に市町村には参加してもらおう方がよい。(眞木)
▶ 行政は除いた方がいろいろな意見が出てよいかもしれない。(原田)
▶ 県も制度設計などで現場の声を聞きたいと思っている。現場の最前線の方々から県の林務部クラスをつなぐ場として機能するとよい。(今村)
▶ ある程度、現場と研究者で進めてから行政に声をかけるくらいがよいかもしれない。(丹羽)
▶ 出先の普及指導員の参加。本庁はオブザーバーとして参加するなど。(眞木)
▶ 一緒に現場で悩んでくれる行政の人が良いと思う。行政を変えるためのガイドラインでもある。(山本)
▶ 3県の林業改良指導員も入れるほうがよい。(今村)
- ・市民が山に興味をもつためのコミュニケーションを育てていく機能と役割に期待したい。(浅田)
- ・学びと交流、学習と交流ができる場をつくることから始めたい。4つの森林組合プラスアルファで。(丹羽)
- ・林野庁と研究者で作った「水源の森林づくりガイドブック」を叩き台とし、新しいアイデアや発想、市民PR、市民からの期待などの観点をに入れていくとよい。(蔵治)

●木づかいガイドライン

- ・木の住まいの紹介パンフレットを作りたいと思っている。どのようなパンフレットがよいかイメージがあれば教えてほしい。また、里山の子どもたちが下流域の子どもたちを導けないかと思っている。そういう場面でもパンフレットが使えたらと思っている。(今村)
- ・前回WGで報告した木系に関する事業。徳島県の企業とライセンス契約したので事業スタートさせる。(今村)

●話題提供 森林環境譲与税を使った森林整備の事例について

- ・森林環境譲与税を使った森林整備は、岐阜県で恵那市が一番早く取り組んだということか。(丹羽)
▶ 岐阜県の中で恵那市が一番早く取り組んだ。林野庁などに問い合わせしながら、市独自の意向調査アンケートや、集積計画を作成した。(原田)
- ・山主さんらは、森林管理の委託についてどのように考えているのか。(丹羽)
▶ 意向調査の結果をみると、ほとんどの山主が自分で手入れできないので市に管理を委託するという返答。(原田)
- ・森林環境譲与税の使い道については、森林整備検討委員会で検討し、決めていくのか。(今村)
▶ 絶対ではないが、森林整備検討委員会のほうで決めていく。(原田)
▶ 森林環境譲与税を職員教育や職場改善のような市独自の課題に結び付けられたらと思う。(今村)
- ・恵那市では森林境界、森林所有者はどのくらい把握できているのか。(今村)
▶ 現在、森林所有者が分からず、森林整備が進んでいけないという問題がある。そのため、所有者が把握できるところをモデル地区とし、そこで整備を進めている。(原田)
- ・林業経営者に山の経営を委託する場合は、林業経営に適したところとなる。よって、手が出せない奥山など森林経営に適さないところの整備を優先して市が整備していくことになる。(原田)
▶ 林業経営に適さない森林に対応できるのは市町村しかないと思う。そういうところに焦点を当てた制度なのかと思う。(蔵治)

今後のスケジュール (予定)

次回の山部会WG・フィールドワークは、12月4日(金)・5日(土)豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129 技官 中村

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R2 フィールドワーク vol.2



発行日：令和2年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆恵那市奥矢作地域を訪れ、森林資源の管理・育成、地域循環利用について学びました！

奥矢作森林塾が取り組んでいる森林環境譲与税を活用した森林整備の状況、奥矢作地域での森林資源を軸とした各種活動について話し合いを行いました。その後、間伐で切り出した材を、薪などへ加工する現場を見学しました。



日時：令和2年10月24日（土） 9:30~12:00

場所：①奥矢作森林塾：森林整備・管理、各種活動について話し合い

②串原大野地区：切り出した材の集積場と薪加工現場の見学

参加者：15名(事務局を含む)

◆フィールドワークの記録

① 奥矢作森林塾での話し合い：森林整備・管理、各種活動について話し合い

奥矢作森林塾が実施している森林整備や管理、施設の維持管理、移住定住施策など各種活動について説明いただき、今後の展開などについて話し合いを行いました。

【森林経営管理制度の取り組み】串原地区において森林環境譲与税を活用した森林の整備や管理を展開し、意向調査、集積計画作成、間伐の実施を進めています。

【空き家を利用した移住定住】移住定住施策のもと、70人以上の方々が都市部から奥矢作地域に移住されるなど地域振興も活発に進められています。

【里山づくり】「串原・里山づくりの会」の活動として、伐倒・造材・集材など森林整備活動、森林学習・安全管理講習・森林調査など技術や知識の育成活動、C・D材（主にチップ用として利用される低質材）を活用した薪づくりなどが紹介されました。

森林環境譲与税を活用した森林整備の課題、外から人を呼び込むための資源活用や広報などの工夫、新しい価値観からみた奥矢作地域の魅力などについて、多岐に及び意見や提案を出し合いました。



② 串原大野地区でのフィールドワーク

里山づくりの会により搬出されたC・D材と加工された薪の集積する現場を視察しました。C・D材として搬出された材木、加工された薪を見学しながら、薪ストーブへの活用など地域循環利用の現状などについて説明を受けました。



奥矢作森林塾による説明



山から搬出され積み上げられたC・D材。D材は薪として加工される。



薪割り機



加工された薪。薪ストーブ、キャンプなど地域循環利用が検討されている。

動画のリンクはこちらをクリック

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。





発行日：令和3年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第58回山部会WGを開催しました！

12月4日(金)に第58回山部会WGを新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で豊田市にて開催しました。今回は、10年誌編集の進捗状況の報告、山村ミーティング・森づくりガイドラインに関する流域ガイドラインの進捗状況の報告などを行いました。また、豊田市における市街地と川辺の木質化について、事例報告がありました。

日時：令和2年12月4日(金) 13:30~17:15

場所：豊田市崇化交流館 3階第1研修室

参加者：18名(内オンライン参加1名) ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)



11/7~8に開催されたグリーンインフラ・ネットワーク・ジャパンにて報告された「矢作川流域圏の担い手づくり事例集」のポスターの内容について説明がありました。ポスターは、これまで実施してきた担い手づくり事例集の活動についてまとめられており、流域圏懇談会の紹介、活動事例などが報告されています。

10年誌の編集は、令和元年8月から13回の編集委員会と座談会を実施し、6章で構成された150ページの10年誌が完成に近づいています。10年誌は令和3年2月の全体会議で配布予定です。

2. 森づくりガイドライン



- ・設立から15年を向かえた「とよた森林学校」の活動や今後の目標などについて報告がありました。とよた森林学校では、急務である人工林の間伐を進めながら、森林市民活動の担い手づくり、自然観察サポーターの育成など人材を育てる活動などを行っています。これら活動により、とよた森林学校は、森とまちをつなぐ仕組みの一つとして、重要な役割を果たしてきています。
- ・矢作川流域圏の森づくりの事例が取り上げられている書籍「現代日本の私有林問題」(志賀和人 編著)の内容をもとに、矢作川流域圏の森林管理の課題等について話し合いました。豊田市における森林組合・団地組織の連携の仕組みから、森林の公益的機能からみた私有林の課題や将来像、森林所有者が抱えている問題、森とまちの交流などについて話し合いました。
- ・流域ガイドラインの進捗状況では、財政支援の可能性として地球環境基金への応募について説明がありました。研究者・市民ボランティア・山林現場技能者による「ガイドライン作り」と「森づくりの健康診断」を進めていく計画で、地球環境基金に計画書を提出しました。

3. 豊田市における まちなかと川辺の木質化事例の紹介



豊田市内の木質化・木造化の推進について、「ウッディーラー豊田」の取り組み事例を紹介していただきました。ウッディーラー豊田は、「木を使いたい」「木を届けたい」をつなげる木のディーラーを目指して2018年に設立されました。「遊ぶ」「仕切る」「つくる」「彩る」「集う」の観点から、豊田市産材を使った木質製品を豊田市各所で展開しています。また、豊田市産材の活用を推進するための木質化推進事業とその補助制度について説明していただきました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集 (10年誌編集委員会)

- ・流域圏懇談会 10年の中で、山部会が果たした役割は大きい。会議の場だけではなく、その間にいろいろ活動しており、それが大きな広がりを作ってきていると思う。(近藤)
- ・これからは、流域圏懇談会での共有の他に、外への発信が課題と思う。特に、矢作川の恵みを享受している都市へどうやって発信していくかを考えていきたい。(近藤)
- ・まちの人を巻き込むことにより、持続可能な流域づくりにつながられるヒントがあると思う。(洲崎)

●森づくりガイドライン

- ・森づくり会議は、地域ごと、部落ごとなどの小さい単位で、山主の方々により組織されている。このような単位での営みを活発化させることが最も重要と考えている。(山本)
 - ▶ 豊田市には、地域の森づくり会議が111ある。豊田市は、13年間でこれら会議を地道につくってきた。森づくり会議と森林学校が連携し、自分たちの集落の周りの森林を自主的・自発的に管理していけるとよい。(蔵治)
- ・いろんな課題を抱え、模索している途中であるが、矢作川流域圏では全国に紹介できるような先進的な森林管理が進められている。(蔵治)
- ・山の共有について。山での生活や遊びは、ヨーロッパのコモンのような国民共有の権利であるべきと思う。(浅田)
 - ▶ 山の所有について、これからは集落で共同管理する形に変わっていく。山主や集落の人たちが、都市の住民と一緒に山を手入れしていくようなプランはある。(蔵治)
 - ▶ 1ターン者が地域の森づくりを担っていくとか、1ターン者と森林ボランティアの連携が進んでいくというような方向に向かわなければいけないと思う。(蔵治)
 - ▶ 森林の公益的価値・重要性について、市民が市民を啓蒙するような形で市民が理解していくことが第一と考える。森林所有者が抱えている問題を共有することが必要だろう。(山本)
- ・旭地区の木の駅プロジェクト。山主と森林ボランティアが協力して、木材の利用ルートを作り、山主の自発的な活動に森林ボランティアが関わっている。(山本)
 - ▶ 旭木の駅プロジェクト、あさひ薪研、錦二丁目まちづくり協議会が連携して、間伐材を活用した山と都市の連携の形を作っている。(洲崎)
- ・佐久島は、外の人が盛り上げて、それにつられて島の人と一緒にやっているという形。豊田市の森づくりの展望の中にも、内から外と外から内の両方のベクトルがあると思う。(浅田)
 - ▶ 20年かかった佐久島の経験が、山での可能性やヒントになるとよいと思う。(池田)

●豊田市における まちなかと川辺の木質化事例の紹介

- ・「とよた子育て総合支援センター あいあい」には子供を連れて行くことがある。木を使っているのでケガの心配もなく、時間を忘れて遊ぶことができる。(石原)
 - ▶ 木質化してから利用者が1.5倍くらいに増え、子供のケガも減ったという報告を受けている。(樋口)
- ・木質化推進事業の予算の総額はどれくらいか。また材料の調達はどうか。(荻野)
 - ▶ 予算は250万円。木質化にかかる経費の1/2を補助する形で進めている。材料の調達も対応できる仕組みを整えた。(樋口)
- ・木材の表面を不燃処理するなど、何か先進的な研究などは中部地方で取り組まれているか。(高橋)
 - ▶ 火災から人が安全に逃げられる時間を確保するための設計の工夫を行っている。山にある適材をいかにうまく使うかという設計の工夫が求められている。(樋口)
- ・豊田市の木材を有効に活用することで、豊田市の森がよくなる。矢作川流域の木材をうまく使うことで、矢作川流域全体がよくなると思う。(斎場)
- ・公共スペースへの木材の利用が拡充されてくる可能性を感じた。これにより、世代を越えた木材に対する意識が向上する。また、都市部と山間部をつなぐ何らかの役割を果たしてくれるという期待が持てる。(城田)
- ・実際の施工において、一番苦労するのは何か。(奥村)
 - ▶ 商業の店舗であると平屋でないことが多く、木材をどうやって搬入し、そこまで持っていくのかということで苦労することがある。(樋口)

今後のスケジュール (予定)

次回の山部会まとめの会・フィールドワークは、1月22日(金)・23日(土)岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 技官 中村

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。





発行日：令和3年1月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆豊田市まちなかをウォーキングし、木質化への取り組みを視察しました！

豊田市駅前の広場「とよしば」から駅前の通りを矢作川に向かってウォーキングしながら、まちなかに配置されているベンチやデッキなどの木質施設を視察しました。矢作川では、公園に配置された木質施設や、矢作川水辺プロジェクトで整備された河川環境を視察しました。

日時：令和2年12月5日（土） 10:00～11:30
場所：豊田市 とよしば～駅前通り～矢作川（白浜公園・豊田大橋）
参加者：16名（事務局を含む）



◆フィールドワークの記録

豊田市駅前広場「とよしば」



まちなかの交流拠点として設置された木造施設。施設内には、工作室、ギャラリー、スタジオなどがある。

芝生広場の上を通る木製の歩道。

駅前通りの木質施設



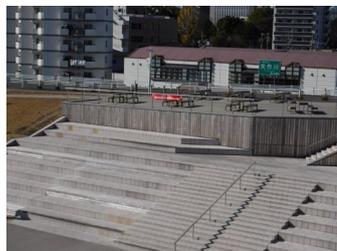
豊田市駅前通りの歩道に並び木製のベンチやプランター。メンテナンスと更新を容易にするため、規格の木材で構成されている。

動画のリンクは
こちらをクリック

矢作川の木質施設と水辺プロジェクト

矢作川水辺プロジェクトでは、まちと水辺が一体となった魅力ある空間づくりとその活用を都心と連携して進められている。

全体エリア：籠川合流点～鶴の首橋付近
コアエリア：高橋～久澄橋
を対象区域とし、整備が進められている。



矢作川河川敷の白浜公園のデッキの壁面、テーブル、トイレ壁面などに豊田市産材が利用されている。また、駐車場の車止めにも豊田市産材が利用されている。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129 ※FAX 番号が変わりました。(令和2年11月24日～)

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。

